

OB 通信 Vol.2

2001 年 12 月発行

発行者：〒753-0841 山口市吉田 1677-1

山口大学体育会ワンダーフォーゲル部 OB 会事務局

URL <http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~tabidori/>

E-mail tabidori@yamaguchi-u.ac.jp

はじめに

大学構内に黄色い葉を一杯に広げていたイチョウも落葉し、大学通りには寒風が吹くようになり、どうやら山口盆地にも本格的な冬が訪れたようです。OB の皆様におかれましてはお変わりなくお過ごしでしょうか。現役部員たちは春合宿へ向け冬の寒さの中、いつもの掛け声を掛けながらうらやましいくらい元気に活動しております。

さて、平成 13 年度 OB 会も残すところあとわずかとなりました。今回は新たな出発が見え始めた新 OB 会出発の要となる、2001 年度 OB 総会での議題を盛り込んだ内容となっております。もちろん現役部員近況報告も充実しております。時間が空いたときに、どうかごゆっくりとご覧ください。

OB 会会長

末国 弘司

OB 会副会長

木山 克彦

事務局

崎間 公久

工学部代表

佐伯 英敬

INDEX

はじめに.....	1
INDEX.....	3
OB 会の活動について.....	4
1 OB 総会.....	4
2 会長より.....	4
3 OB 会会則案（再録）.....	5
4 OB 会費納入状況.....	7
5 会費振り込みについて.....	8
6 名簿の訂正と変更.....	9
7 インターネットを利用した OB 会活動.....	10
現役部員近況報告 <本部編>	11
1 2001 年度夏合宿報告.....	11
北アルプス表銀 Party.....	11
北アルプス裏銀～表銀 Party.....	12
屋久島フォローワン Party.....	14
アフター北アルプス焼岳 Party.....	16
一年生合宿.....	18
2 執行部近況報告.....	18
3 2001 年度春合宿コース紹介.....	19
霧島・開聞岳 Party.....	19
奄美大島 Party.....	19
現役部員近況報告 <工学部編>.....	20
1 2001 年度夏合宿報告.....	20
北アルプス表銀座（上高地～常念山脈～燕岳） Party.....	20
2 執行部近況報告.....	22
3 第 35 回 80 km 耐久徒歩結果報告.....	22
4 2001 年度春合宿予定.....	23
OB 近況報告.....	24
編集後記.....	25

OB会の活動について

1 OB総会

今年度OB総会を下記の通り開催することとなりました。

日時 2002年1月26日(土) 16:00～
場所 太陽堂旅館(山口市道場門前、TEL083-922-0897)

今回の総会では以下の議題について審議していただき、承認をとりたいと思っております。

- 1 OB会会員資格を含めたOB会会則
- 2 工学部OB会費払い込みのスタートラインの決定
- 3 OB通信発送に伴う作業費のOB会費からの負担

①については、「(2) 会長より」をご覧ください。

②については、工学部OBからもOB会費を徴収しているにもかかわらず、いつからの払い込みかがはっきり決まっていなかったため、会計が少々混乱しています。OB会会員資格の規定が決定した後、改めて工学部のOB会費払い込みのスタートラインを定める必要があると思います。具体的には、昨年度から、今年度分から、来年度分からの3つのうちから決定するのが妥当ではないかと思います。

③については、会長、副会長との話し合いのときに出た案で、OB通信一部作るにつきいくらか(40～50円)を上限として、作業賃を現役部員に払っても良いのではなか、ということになりました。冊子を作るのには時間と人数がかかりとても一人ではできません。今までは手伝ってくれた3年生以下現役部員に4年生が自腹を切って食事をおごるなどしていました。その食事代の負担がなくなるくらいの額をOB会費から出していただきたいとの提案です。

その他にも、今年度会計報告、新OB紹介、新執行部紹介等を予定しております。御忙しいとは存じますが、お誘い合わせの上奮ってご参加下さりますようお願い申し上げます。また、同封いたしましたハガキで出席の可否をお知らせくださりますよう併せてお願い申し上げます。■

2 会長より

新風を～OB総会について～

早いもので、21世紀最初の年ももう過ぎようとしています。「戦争の世紀」といわれた20世紀から脱して平和な世界へ向かいたいとの願いも、秋口から雲行きが怪しくなりました。ワンゲル活動は平和な時代にあって、豊かな自然に恵まれてこそ成り立ち花開くものであり、またそのような世界を構築し続けることが、われわれに課せられた課題であろうと思います。

OB会にあっては、21世紀の到来とともに第二の人生へと踏み込む仲間が増えてまいりました。また、40年の歴史を刻めばOBの数も増大します。そこでこのあたりでひとつ、組織を整理し再構築してはどうかとの声が出て、取り組むこととなりました。それが前回の総会でのことです。

そこで、幾つかの提案をしました。

その意図するところ、詳細は平成12年12月及び平成13年7月発行のOB通信に掲載していますが、将来の展望図は改めて次の段階で提示することとし、まず急ぐのは会員資格に関する事項です。その要点を再録すれば、次の通りです。

- ① OB会は、山口大学に在学中(卒業時ではない)ワンゲル部(学部は問わない)に在籍

した経験を有し、かつOB会に入会の意思を示した者、をもって構成する。

- 2 入会の意思表示は会費の納入を持って、これに代える。また会員の入脱会は自由である。
- 3 現在、会費未納入のOBにはほぼ半年を目途に会員へのご案内をして、なお納入無き時は会員登録を見合わせる。

以上につきます。要は、組織をいまま少し引き締めて、親睦会にせよ、誘い合つての山行にせよ、とにかく動き易くすることです。

これに併せて、OB会会則（案）も提案しておきました。

今回の総会では、まずこの会員資格についてご審議いただきます。総会出席者の人数に拘わらず、その総意を持って決定したいと思います。いささか乱暴なようではありますが、総会出席者の増大が見込めない現状ではやむを得ない措置と、ご了解ください。つきましては、広く会員諸氏のご意見を求めます。貴重なご意見があれば総会で審議したく思いますので、ご協力をお願いいたします。ご意見は文書、電話、Eメールその他どんな手段でも結構です。事務局及び会長、副会長宛をお願いいたします。

次に、現在東京で活躍しておられる方々のご了解を得て、東京支部を立ち上げたいと思います。改めて、東京在住のOB諸氏のご意見を求めます。

OB会の目的は、会則案にも示した通りですが、何はともあれ、会員相互の親睦を図ることが当面最大の目標となります。卒業年次が異なると中々親しく付き合う機会が持てないものですが、年代を越えての親睦が気軽に図れるようになってから、次の段階へと進みたいと思っています。

そこで、まずOB総会ですが、現在は現役4回生部員の追い出しコンパに併せて開催するのを常態としていますが、次回はできれば、秋に、山口を離れてハイキングを兼ねた総会をしたく思っています。家族同伴OK、の会にする予定です。日時場所その他、ご要望ご意見を求めます。その成果をみて、また次の方向を定めたいと思います。

OB会会計について、今後の方針の概略を述べておきます。

OB会費は、事務局経費を除いて、会員相互の親睦を図る目的に沿い、積極的に活用していきます。支部が発足すれば、その運営費を補助します。総会にももう少し予算を組みたいと思います。OB相互の親睦会が、随時日常的に開かれるようなOB会にしたいと思っています。■

OB会会長：末国 弘司

3 OB会会則案(再録)

(名称)

第一章 本会は山口大学ワンダーフォーゲル部(略称 Y.U.W.V.OB会)=仮称=と称する。

二 事務局は山口大学ワンダーフォーゲル部内におく。

(目的)

第二章 本会は会員相互の親睦を図り、山口大学ワンダーフォーゲル部の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第三章 本会は第二章の目的達成のために次の事業を行う。

- 二 会員相互間の親睦に関すること。
- 三 山口大学ワンダーフォーゲル部に対する援助、指導助言等。
- 四 会報及び会員名簿の発行。

五 その他本会の目的達成のために必要と認められる事業。

(組織)

第四章 本会の会員は次の通りとする。

二 正会員 山口大学在学中に山口大学ワンダーフォーゲル部に在籍した経歴を有し、且つOB会に入会の意志を表明した者

三 準会員 山口大学体育会ワンダーフォーゲル部員
山口大学工学部学友会ワンダーフォーゲル部員

四 正会員たる有資格者の入会及び脱会は自由とする。入会の意志表示は会費の納入をもってこれに代え、脱会はその意志を表明で認め、総会に報告する。

第五章 正会員は次の場合、その資格を喪失する。

二 会費滞納者には半期(半年)毎に督促状を送付し、督促状三回をもって自動的に正会員の資格を失う。

但し、再度入会の意志表示があった場合はこれを認める。

三 会員としてふさわしくない行為のあった者

第六章 本会には次の役員を置く。役員の任期は二年とする。但し再任は妨げない。

二 会長 一名
副会長 一名
支部長 各一名
会計 一名
監査 二名
事務局長 一名

三 会長は会を代表し会務を総括する。

四 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはこれを代行する。

五 支部長は各支部を総括する。各支部はその必要に応じて幹事等の役員を置く。

六 事務局長は山口大学ワンダーフォーゲル部の直前主将が務める。

但し、直前主将に支障あるときは直前の副主将または直前主将が指名する者がその任に当たる。

(総会)

第七章 総会は次の通り開催する。

二 定期総会は年一回とし、必要に応じて臨時総会を開催する。

三 総会は会長が招集する。

四 総会への出席は委任状をもって代えることができる。

五 議事は総会の出席者(委任状を含む)の過半数で議決する。

(会計)

第八章 本会に会計を設け、会計及び寄付金、その他事業収入をもって会の運営費に当てる。

二 正会員の会費は年二千円とし、五年単位の一括納入を認める。

三 寄付金は一口千円とし、常時受け付ける。

四 会計報告は監査報告と併せ、年一回定期総会で行う。

第九章 本会には別会計として遭難対策基金(仮称)を設ける。

二 遭難対策基金には、OB会会計から支出し積み立てるものとする。

三 遭難対策基金の支出は会長が判断し、できるだけ速やかに会員に報告する。

(その他)

第十章 本会則は総会出席者の三分の二の賛成を得て改正することができる。

第十一章 本会則は平成 年 月 日をもって発効する。

付則 本会則の発効をもって昭和43年12月制定のOB会則はこれを廃棄する。

4 OB会費納入状況

今年度OB会費を納入してくださった方々をご紹介します(2001年12月13日現在)。一括納入していただいた方には、会費納入済み年度(西暦)の数字を()内に記してあります。また、今年度分会費を納入していただいている方には、会費納入状況をお知らせする紙を同封いたしましたのでご参照ください。

※ 工学部OB会費については、会計をどのようにするのかという事と、入金開始時期がはっきり決まっていなため、次回OB総会にて入金のスタートラインをそろえようと思います。したがって、支払い済み年度についてはそれまで保留という形にしたいと思います。■

5 会費振り込みについて

今年度OB会費を納入されていない方は下記へ納入して下さいますようお願い申し上げます。同封の郵便振り込み用紙をご利用ください。

郵便局：01530-0-16050
山口大学ワンダーフォーゲル部

また、会費納入は1年分納入、5年分一括納入のどちらかで御支払い下さりますようお願い申し上げます。

1年分会費・・・・・・・・・・2,000円

5年分一括納入・・・・・・・・10,000円

※会費を口座に振り込んでくださる際、口座引き落としにされると当方に明細書は届くのですが、振り込まれた方の御名前が通知されず、当方で確認が取れません。払込用紙を使って振り込んでいただくと、その払込用紙のコピーが当方に届きますので、御手数ですが払込用紙を使って会費を納入して下さいますようお願い申し上げます。■

6 名簿の訂正と変更

前号と一緒に送った13年度OB会名簿ですが、記載事項に誤り、変更がありましたので連絡いたします。ご迷惑をおかけしましたこととお詫びいたします。また、転居先不明の方の住所をご存知でしたら事務局までご一報ください。

7 インターネットを利用したOB会活動

◆山口大学ワンダーフォーゲル部ホームページについて

前回のOB通信でもご紹介いたしましたとおり、山口大学ワンダーフォーゲル部のホームページがインターネット上に設置完了いたしました。内容に関しては頻繁に更新しております。合宿や年間行事の写真とレポート、部員紹介、OB通信バックナンバー、フリーワン紹介等さらに充実した内容になっておりますので、ぜひご覧ください。閲覧方法はいろいろありますが、代表的なのは次の三つです。

- ・ アドレスにURLを打ち込む。
- ・ 検索サイトから探す。
- ・ お気に入りから飛ぶ

表紙に書いてある通り、URLは <http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~tabidori/> です。wwwをstuに変えても同じです。検索サイトからは、「Yahoo!」「Google」から「山口大学ワンダーフォーゲル部」のキーワードで一発ヒットすることを確認しています。自分のパソコンで見えていらっしゃるのであれば、ツールバーの[お気に入り]-[お気に入りに追加]でお気に入りに追加することで、次からは簡単に見ることができます。

また、OB会用の掲示板もつけております。OB会の活動についてOB総会以外でも意見の交換ができたらいいのではないかと思います。設置したのですが、残念ながらまだひとつも書き込みがございません。場所は一番上のページから[OB会]-[OB会掲示板]です。掲示板にはどなたでも書き込みできますので、メインの掲示板ともどもご利用ください。■

◆EメールでのOB通信発送

OB通信の発送につきましては、前回からEメールでの発送も行っております。前は、メールでも構わないと言ってくださった数人のOBの方々に、ワープロソフト「Word」の文章ファイルをメールに添付してお届けいたしました。

今回からは、ウィンドウズやマッキントッシュなどのOSを選ばず、ソフトにもあまり依存しないHTMLファイルで発送したいと思います。HTMLファイルはインターネットエクスプローラー、ネットスケープなどのブラウザで閲覧できます。

印刷などの都合でWordファイルのほうが良いという方には別途発送いたします。OB名簿の最新版についても、随時発送を承ります。

Eメールでの発送にご協力していただける方は、同封いたしましたハガキにてお知らせください。また、Eメール発送についてご質問等ございましたら、どうぞお気軽に山口大学ワンダーフォーゲル部のEメールアドレス（ホームページ管理人宛）でご連絡ください。管理人が代わってもアドレスは不変です。■

現役部員近況報告 <本部編>

1 2001年度夏合宿報告

□北アルプス表銀 Party

今年の夏合宿は、両Partyとも台風のため、残念ながらエスケープとなってしまいました。合宿中、本当に台風が来るのかというくらい晴れていて、台風の接近を疑うほどでした。しかし、PLはP-menを安全に下山させるのが最大の使命です。台風は下山の基本の元、青空に映る穂高を背に下山を決意しました。

下級生には楽しませてやれなかったのが心残りですが、下山してP-menの笑顔を見るとほっとしました。エスケープという経験を今後の山行に生かしてもらい、引き返す勇気を身につけてもらいたいです。

AP 晴れ

朝、山大合宿所で目覚め、エッセンの後湯田温泉駅へ。前日までに十分に準備を重ねてきた夏合宿がやっと始まった。駅では、差し入れを持ってきてくださった多くの先輩方に見送っていただき、ありがとうございました。

この合宿はアプローチ、1日目、2日目と県立大学と一緒にの行程となり、朝、早速電車にて会う。一緒と言うことで少し心強い感じである。新幹線、特急と乗り継ぎ松本へ。ここでもうひとつのPARTYと別れる。少しさびしい感じだが、気を引き締めながら上高地へ。

上高地では天気が良く、想像していた以上に観光客が多いことに、ただ驚くだけであった。今日はここで一泊。

1日目 晴れ

いよいよ合宿1日目。まだ夜も明けぬ暗い中、撤収を済ませ出発へ。ここから横尾までは広く平坦な道が続く。夜も明けてくると周りの景色が見えてくるが、上空の山はガスがかかっている。

歩いていると、ガスの隙間から朝日に照らされる明神岳が垣間見え、歓声が上がる。明神、徳沢を過ぎ横尾へ。やはりアルプスだけあって登山者の数が多い。横尾からは本格的な登山道へ。目の前に屏風岩がそびえ立ち、さらに奥には北穂高岳がちょこんと見える。本谷橋からは登りがきつくなり、差し入れを持っているとはいえ遅れる自分が情けなく感じた。この辺りから県立大学ワングルと抜きつ抜かれつの行動となり、涸沢までの競争が続く。

涸沢は写真で見たとおりの絶景が広がり、カールの中に溶け込まれそうな気分だった。

2日目 晴れのちくもり

今日は穂高岳の盟主奥穂高岳に登る。まだ暗い中での出発だったので、空には満天の星空が広がっていた。岩礫帯の中を進み高度を上げていくと、空が明るみ始め、朝焼けに映える穂高連峰に感動した。みんなも笑顔で登りのきつさも消える。ザイテングラードは途中三点支持を必要としたが、練習の成果か難なく進めた。

穂高岳山荘に到着して、休憩しようとした瞬間、爆音と突風とともにヘリコプターが登場。あまりの迫力にみんなびっくり。でもいい思い出になった。

山荘からは急斜面に取り付けられたはしごを登っていく。予想した以上の高度感に足がすくみそうになった。奥穂ピークは意外と狭く、窮屈でした。しかし、日本第3位だけあってすごいとしか言いようがなかった。涸沢側はガスっていたが、新穂高側は見晴らしが良かった。

テン場に戻り、小屋の人や県大の人と台風について話す。予想より早いスピードで来ていて、夜10時に天気図を作成。

3日目 晴れのちくもり

朝、P-menにエスケープを伝え、最後に穂高連峰をバックに写真を撮り、下山開始。

名残惜しさをこらえ、横尾へ。台風が接近しているのに登山客が多いのに驚いた。明神では、昼のエッセンを含め大休憩を取った。ここは普通の観光客が多く、自分たちのようにザックを背負っている方が珍しく、なんか変な気分であった。上高地に着いて下山。APで来た時のように人が多く、バスに乗れそうもなく、もう1日上高地にて泊まる。早くエスケープしてしまったので、上高地を満喫しているP-menを見られて良かった。■

PL: 佐藤 慶二

▼コースタイム

◇1日目

上高地 → 徳本峠分岐 → 徳沢園 → 横尾 → 本谷橋 → 涸沢
4:25 5:07/5:24 6:08/6:26 7:20/7:39 8:44/9:08 12:05

●計7本 5:18

◇2日目

涸沢 → 穂高岳山荘 → 奥穂高岳 → 穂高岳山荘 → 涸沢

4:02 6:51/7:06 7:52/8:13 8:52/10:15 12:22

●計8本 5 : 1 6 (全てサブザック行動)

◇3日目

涸沢 → 横尾 → 徳沢園 → 明神 → 上高地
5:03 8:07/8:30 9:20/9:45 10:36/11:40 12:16

●計6本 4 : 4 2

■総コースタイム：総計21本、山中3泊4日、15 : 1 6

北アルプス裏銀～表銀 Party

今年8月17日～20日に北アルプスにて夏合宿を行いました。合宿出発前から気になっていた台風でしたが、AP、1日目、2日目と天気図をとるごとに台風はアルプスへ近づき、2日目のテン場である野口五郎小屋にて、エスケープを決定しました。裏銀座から表銀座への大縦走を行うことで、雲の上の世界、北アルプスをP-menには満喫してもらいたい。自分もちろん満喫したい。そして何より、ワンゲルに入っ
て良かったと皆が思えるような夏合宿にしたい。そのような気持ちを持ち続けてやっと迎えた夏合宿は、結果的にはエスケープという形で終わってしまいました。が、皆で一つになって目標に向かったことは出発前のParty行動も含め、実りのあるものであったのではないかと考えています。

AP (8/17) 晴れ

OBの方、佐藤P、フォローWP、工学部、県立大と、本当にたくさんの差し入れをいただき、山口線に乗り込みます。さあついに夏合宿へ出発です！さっそくいただいた差し入れをがつつ食べ、はじめは騒いでいたP-men達でしたが、朝が早かったこともあって新幹線ではぐっすり…。あつという間に松本に到着です。ここで佐藤Pとしばしの別れ。お互い楽しんでこよう！

タクシーで高瀬ダムまで行くのに、予定外に手間どってしまいました。高瀬ダム手前の七倉からは車数制限があるのですが、その待ち時間の長いこと！高瀬ダムは東洋一のロックフィルダムであり、それが観光客にうけて、ツアーにも組み込まれていたりします。確かに、綺麗に石が積上げられた巨大ダムには圧倒されましたが、アルプスを目の前にした私達には、ダムも、それを見にくる多くの観光客も少し奇妙に思え、複雑な気持ちになりました。

ダムからは吊り橋を渡り、10分弱でテン場に到着。テントは一張りも無く、少し寂しいなと感じながらも、せかせかとエッセンの準備にかかります。するとそこに1匹の小ギツネが！はじめて野生のキツネを見た1年生は特に大はしゃぎ。写真を撮りまくります。明日からは、もっと素晴らしい自然との出合が待っているぞ。とりあえず明日の急登を乗り切ろう…！

1日目 (8/18) 曇りのち晴れ

今日はいよいよ北アルプス三大急登（三大バカ登りとも言うらしい）の一つ、「ブナ立て尾根」を越える日です。「1日目で荷物はまだ重いし、なんと言っても三大急登って言う位やから相当きついやろう。」と、合宿前からかなりおどしていたので、みんな気合いが入っているようでした。

テン場から10分程で登山口に到着、本物の‘アルプスの天然水’を飲んでポリタンクに入れます。冷たくておいしい！登り始めということもあり初めのうちは皆つらそうで、一本とっても「しーん」となったりしていましたが、次第に調子が上がってきて、最終的に烏帽子小屋へはコースタイムよりかなり早く到着することができました。小屋からの眺めも良く、明日向かう烏帽子岳や裏銀座の山々を確認することができました。

そして、テントを張り終わってのんびりしていると、岡山大学のワンゲルが隣にテントを張っているらしいという情報が！皆で挨拶に行きます。すると見覚えのある顔を発見。今年の中四総会で仲良くなった、橋本くんのPartyでした。聞くと、白馬の方から縦走を続けており、槍まで行くと言います。明日のテン場である野口五郎小屋も同じでした。やはり台風のことを気にしていましたが、とりあえずは皆で写真を撮って、話に花を咲かせます。ワンゲルがまたひとつ出会いをくれました。

2日目(8/19) 晴れ時々曇り

今日は初ピークを踏めるとあって、わくわくしながら出発です。しかも烏帽子岳はピストンなので、サブザックでの山行。皆の足どりも軽い！小屋を過ぎ、ニセ烏帽子の手前付近で御来光を拝むことができました。右手に広がる雲海、そこからオレンジ色に輝く太陽が顔を見せはじめています。アルプスの御来光はやっぱり違う！ピークからではないものの、初の御来光ということで感動的でした。そして、そのオレンジの光を浴びた烏帽子岳と、それを目指す皆の後ろ姿の美しさ…！「ヤマケイの表紙みたい！」と思い、何枚も写真を撮りました。

烏帽子岳直下の鎖場は、傾斜が急でなかなか手強いうえに、上りも下りも同じ道ということで少々混雑していました。ピークも狭く、後ろに人が並んで待っていたので、さっさと写真を撮ります。岩の切り立った、3人がやっと入れるくらいの狭いピークでしたが、皆思い思いのポーズをとります。空は真っ青で、ピークからの眺めも最高でした。

烏帽子小屋に戻ってからは、アタックザックで野口五郎小屋を目指します。全体的に眺めは良かったのですが、三ツ岳北峰を過ぎたあたりからは、時々ガスりがちでした。アップダウンが繰り返され、足元には岩がゴロゴロ転がるという少々歩き辛い道を越え、無事野口五郎小屋に到着です。エッセンまでだいぶ時間があつたので、オッチェンはトウガラシを賭けてトランプを楽しんでいました。(その後、大量のトウガラシを食したためゲリになる者あり。)

小屋に行ってみると、休憩中の登山者が何人かいたのでしゃべっていると、話題はやはり台風のことになりました。台風は勢力も衰えず、アルプスへ近づいていました。山の天気を見る限りでは、とても台風が向かって来ているとは思えないのですが、16:00の天気図では今後の行程について考えなければならない状態でした。22:00の天気図をとり、確実に台風が来ってしまうということで、明日、野口五郎岳をピストン後に下山するということを決定しました。明日はまだ天気が良く、御来光も見られるでしょうし、エスケープ中に雨に降られる事も無いはずです。このことをプラスに考えるべきだと心に言い聞かせ、明日を迎えることにします。

3日目(8/20) 晴れ

2時半に起床し、今日の行程をP-menに告げ、野口五郎岳に向かって出発です。エスケープは残念ですが、野口からの御来光が見られるというのはせめてもの救いだと思い、そのためにそれへの期待もふくらみました。ピークに着いた時はまだ薄暗かったのですが、槍の姿も見えみんな大はしゃぎ。御来光を30分程待つ間も、1年生は本当に元気で、ピークをうろちょろして写真を撮ったりしていました。(上級生は寒さのため岩の陰でちぢこまっていました。)

御来光の瞬間には、銀座の山々をはじめ穂高の方も朝日に照らされ、とても幻想的な世界が広がりました。この景色を見て、皆、嬉しさと同時に悔しさもこみ上げてきているようでした。私もそうでした。しかし、こんなに夏合宿を楽しみ、最後まで行きたがるP-menと一緒に合宿に行けたことを、私は嬉しく思いました。

来た道を引き返すようになってしまいましたが、高瀬ダムへ向かいます。最後の夏合宿がエスケープになってしまい、自分がワングルでアルプスに行くことはもう無いのかと思うと、歩きながら少ししみじみとしてしまいました。しかし同時に、事故も無く終われそうな事で肩の荷が下りるような気持ちもありました。途中、APのテン場であった濁り沢でゴミを拾いつつ、高瀬ダムへ無事下山することができました。その日のうちに松本の県の森公園へ向かい、ビールで乾杯！！おつかれさまでした。

台風が近づいたことによるエスケープということで合宿は終わってしまいましたが、これはこれで、下級生にとっても貴重な経験になったのではないかと思います。合宿自体は短いものでしたが、アツイ夏の思い出をくれたP-menのみんなにありがとうと言いたいです。

また、最後になりましたが、この夏合宿を計画するにあたって、多くの先輩方から助言や励ましの言葉を頂き、大変心の支えになりました。ありがとうございました。■

PL：村井 容子

▼コースタイム

◇1日目

濁り沢キャンプ指定地 → ブナ立て尾根登山口 → 三角点 → 烏帽子小屋テン場
5:00 5:13/5:20 8:23/8:35 10:45

●計8本 3:53

◇2日目

烏帽子小屋テン場 → 烏帽子岳 → 三ツ岳北峰手前 → 野口五郎小屋テン場
4:55 6:00 8:18/8:40 11:45

●計8本 4:24

◇3日目

野口五郎小屋テン場 → 野口五郎岳ピーク → 烏帽子小屋 → ブナ立て尾根登山口 → 高瀬ダム
4:20 4:32/5:10 8:29/9:10 12:58/13:15 14:03

●計11本 5:16

■■総コースタイム：2泊3日, 総計27本, 13:33

屋久島フォローワン Party

A P : 19:59、湯田温泉駅を出発。薄暗い周りの景色に変わった様子はないがいつもの合宿出発と比べて変な感じがするのは、これから明るくなっていくか、これから更に暗くなっていくのかの違いなのだろう。先輩、後輩、工学部、県大と様々な方に見送って頂き、夜の博多を目指していく。途中激しい通り雨にあって電車が一時停車して時間通り博多に着くか不安になったが、無事に予定時刻に博多に着いた。

バスセンターで予約していた切符を買い高速バスに乗りこむ。下のトランクにザックが入らなかったが、幸い人が空いていたので座席の上に置くことに。約6時間のバスの旅。快適に寝られることを期待していたのにPLの前に座っていた中年のおじさんは、後ろに人が座っているのに断りもなくめいっぱい座席をさげてきた。傍若無人なおやじへの怒りと狭い座席空間のせいでほとんど眠れず西鹿児島へ到着。通勤前の朝6時、ユニフォームとニッカ姿は目立つ目立つ。バスターミナルで港への道を尋ねていたら美しいおねえさんに話し掛けられる。福岡大学ワンダーフォーゲル部のOGらしい。ユニフォームと一緒に懐かしくなって話し掛けてみたとのこと、差し入れにハイチュウをいただく。港からフェリーで宮之浦港へ。初めての屋久島は少し小雨がぱらついていた。観光センターで様々な情報を得てA Pのテン場、オーシャンビューキャンプ場へ向かう。

1日目：オーシャンビューキャンプ場を8:00に出発する予定だったが雨が降っていたため様子を見る。この日はバスで白谷広場まで行きそこから原生林歩道を通り白谷山荘まで行く2時間22分（うちバス32分）の行程と短いため天候判断は12:00までで、どんよりたれこめている雲の行方を見守る。海の方は晴れているが山は曇っている。

12:00テン場発。25分でバス停。バスで山道をグネグネのぼって行く。酔わないように寝ておく。白谷広場についてもぱらぱらと小雨がぱらついていた。ひどくなる気配がなかったため先を進むことに。テン場到着予定まで時間がなかったためにせっかくの屋久島の原生林に囲まれた神秘的な風景を楽しむ余裕がない。というよりきつい。

1年生もきつそうだ。今思い返しても合宿中この日が1番きつかった。蒸し暑いし荷物は重いし道はぬかるんでいるし、途中三本足杉やくぐり杉などいろんな杉があったがじっくり見る暇はない。なんとか白谷山荘につく。ゆっくりしている暇はない。何と昼飯をまだ食べてなかった。急いで昼のエssen。晩のエssenを1時間遅らせる。昼と夜のエssenをほとんど立て続けに食べる。それにもかかわらず1年生はきちんと就寝時間までにカスリをやったのけた。

2日目：昨夜寝ていたら耳元をカサカサ動くものがいた。ネズミはいると聞いていたがまさか。クモだった。朝4時起床、他の宿泊客に迷惑にならぬよう外へでてエssen。綺麗な星空が見える。今日はウィルソン株や縄文杉が見られる。樹齢7000年とも言われるあの巨木はどんな姿で迎えてくれるのだろう。

楠川歩道出合いから軌道敷が現れる。軌道敷は普通に歩く間隔より若干せまいので微妙に歩きづらい。

荒川から縄文杉の間は道が良くツアー登山（観光？）で多くの（うんざりするほどの）人が行き交う。途中軌道敷が崩壊しているところも合ったが巻き道がついていた。川沿いにずっと進んでいく。大株歩道入口から木段と木道が続く。このあたりから宮之浦岳や翁岳が樹林帯の間から見える。ウィルソン株ではツアーガイドの話をこっそり聞く谷君がいた。また木道をひたすら歩き大王杉で昼のエッセンを食べ縄文杉へ。

縄文杉はほとんど枯れかけているのかあまり生命の営みを感じることはできなかった。個人的な感想であるが1日目、2日目と様々な巨木を見てきたが名前のついた古い木々より、名前などついていない若々しい、躍動感あふれる生き生きとした樹の方が私の心には響いてきた。縄文杉・・・人に見られなくなかったのではないか、このままそっと死んでいきたかったのではないか。なんだか本人の意思に反して無理に延命治療させられ、さらし者になっている感じがした。

ここからはもう本格的な縦走コースであるため観光客はいない、登山者のみである。昨日と違い余裕のペースでテン場の新高塚小屋に着き外でトランプを楽しむ。テン場にヤクシカやヤクザルが近づいてきた。登山者がえさをやったりしているのだろう、人を恐れている様子はない。

3日目：今日は九州最高峰を目指す。ヤクザサに両脇を固められた道を歩きピークへ。宮之浦岳からの360度の展望。見えているのは海なのか、雲なのか、遙かかなたの風景。こんな小さい島にこんな高い山。不思議な島だ。あとはもう下って淀川小屋に行くだけだ。花之江河の湿原もこの季節ではいまいちだ。今日で合宿はほとんど終わったとっていい。最終日の夜もみんなでトランプで燃え上がる。

4日目：1本で登山口へ着きそこからヤクスギランドまでひたすらロードを歩き合宿終了。

この3泊4日を振り返ってみるとよくもまあこれだけ晴れたなあと思いました。季節にもよろうが一月に35日雨が降ると言われていたため、まさかノー沈で全コースいけるとは思いもよりませんでした。夏合宿が両パーティーともエスケープしてしまっていただけに全コース行く事ができ本当に良かったです。パーメンのおかげで本当に楽しいフォローWになったと思います。■

PL：藤井 祐介

▼コースタイム

◇1日目

オーシャンビューキャンプ場 → 宮之浦バス停 → 白谷広場 → 白谷山荘
 12:00 12:25/13:06 13:37/13:45 15:20

●計4本 2：22（うちバス0：31）

◇2日目

白谷山荘 → 辻峠 → 小杉谷山荘跡 → ウィルソン株 → 縄文杉 → 新高塚小屋
 6:00 6:28/6:45 7:25/7:40 9:21/9:50 11:40/12:15 13:36

●計8本 4：36

◇3日目

新高塚小屋 → 平石岩屋 → 宮之浦岳ピーク → 翁岳分岐 → 黒味岳分岐 → 淀川小屋
 6:00 8:12/8:30 9:28/9:50 10:27/11:10 13:00/13:15 14:56

●計9本 6：11

◇4日目

淀川小屋 → 登山口 → 紀元杉 → ヤクスギランド
 6:00 6:45/7:02 7:22/7:37 9:02

●計4本 2：14

■■総コースタイム：3泊4日、25本、15:23（うちバス移動0:31）

□アフター北アルプス焼岳 Party

1日目（曇りのち雨）

いよいよ始まった今年のアフターは、あいにくの曇り空で幕を開けた。予報では今日から天気はぐずつくらしいが、とりあえず松本バスセンターへと僕達は向かった。7:50 発高山 BS 行きに乗り込み、ひとまず平湯温泉に到着。さすがに観光地ともあって設備、広さともに申し分なかった。少々名残惜しい平湯温泉を後にして、僕達は次のバス「新穂高ロープウェイ」行きに乗った。高まる期待と不安を胸に……。終点までにはいくつかの温泉郷が点在しており、さすがに楽しみになってきた。そしてようやくバスを乗り継ぎロープウェイ乗り場に着いた。

しかし、残念ながら西穂山頂付近ではあいにくの雨。苦渋の選択で沈を決めた。明日の晴れ間を期待しながら寝床についた。

2日目 (晴れ)

朝起きると青空が私達を出迎えてくれた。気分よくロープウェイに乗り込んだ。中からは雄大な山々が広がり、笠ヶ岳までも見ることができ少し興奮気味だった。ロープウェイを乗り継ぎ、わずか10分で標高2156mの西穂高口に到着。観光地だけあり、展望台や食堂、土産屋などがそろっていた。少々観光をし、いよいよ登山道へとさしかかった。

西穂山荘までは標高差210mとさしてなかったのだが意外と堪えてしまった。樹林帯を縫うように登って行き、時折見える西穂を目指しながら最後の急登を登っていった。やがて勾配がなくなると樹林を抜け、西穂山荘に着いた。森林限界に建つ山荘からは焼岳への稜線が見え、明日の期待をさらに高めてくれた。しかし山の上だけあって、夕方にはかなり寒さを増して来た。エッセンも少し多めであったが温かくおいしく頂いた。

3日目 (晴れ、明け方一時ガス)

朝のエッセンを済ませていざ出発。起きた時には辺り一面ガスだったが、出発する時にはすっかり晴れ渡っていた。小屋から東側の斜面を独標へと登っていく。初めのうちは傾斜もそれ程なくハイマツを縫っていく稜線歩きだ。途中にある裸地の丸山では360度の展望が広がり、笠ヶ岳や霞沢岳の稜線が広がりしばらく心をうばわれた。

ここからは傾斜も増し道も歩きにくくなった。小一時間ほど登り独標が間近に見えてきた。直下では所々三点支持を使い、ようやく独標に着いた。西穂ピークへの切れ落ちた稜線のほか西穂山荘や遠く焼岳を望めることができた。再び山荘に戻った後は最終日のため焼岳への稜線を進んだ。樹林の中を行く道は意外とアップダウンがきつく人気もほとんど無かったが、静かな稜線歩きの途中にはきぬがさの池と呼ばれる小さな池があり気持ちよく歩くことが出来た。所々では上高地や槍ヶ岳を見ることができ、疲れた心を癒してくれた。やっとの思いで到着した僕らを迎えてくれたのは気さくで気前のよすぎるおじさんであった。

4日目 (晴れ)

朝起きると外はまだ真っ暗で小屋でお茶をもらい夜が明けるのを待った。午前五時になると徐々に明るくなり、朝焼けに焼岳が映えて何とも感無量だった。焼岳には小屋の西側の草付きの斜面を登っていく。10分ほどで小さなコブ(展望台)に着きさらに砂斜面を登っていく。空気には硫黄の香りがたちこめていて穂高連峰唯一の火山はだてじゃないと思った。さらに岩のごつごつした斜面を登り焼岳北峰に到着した。

ピークは硫黄の噴煙がいたる所で発生しなんとも息苦しかった。しかし展望は上高地から穂高連峰と360度広がっており最終日にふさわしい光景であった。途中小屋で作ってもらったおにぎりを食べ、小屋まで戻った。焼岳小屋で一息つき、残すは下山のみとなった。ここまでの道のりは自分にとって一番の難関であったけど、十分にそれを埋めてくれたものとなったと感じた。名残惜しい気持ちを抱え小屋を後にして明るい斜面を下っていった。陽射しもあってか気持ちよく下っていく。

途中何本かのはしごを伝っており、全員で楽しく下りていったように感じた。一時間半ほどで登山口に到着し、さらに歩いて終点の上高地に到着した。ここでようやく肩から荷を下ろせることとなった。が、終わってしまうと少しだけ淋しい気分がした。

最後に、何事もなく全員無事に下山できたことと P-men 全員が付いてきてくれた事、さらにアフターを最後までやり遂げることができたことに大きな達成感を感じた。そして P-men およびアフターという機会を与えて下さった方々に深く感謝します。おつかれさまでした。■

PL : 藤田 康雄

▼コースタイム

◇ 1 日目 沈殿

◇ 2 日目

新穂高温泉駅 → 西穂高口 → 西穂山荘
 ロープウェイ・徒歩 0:35 1:00

◇ 3 日目

西穂山荘 (→ ← 西穂独標ピストン) → 上高地傍観のピーク → 焼岳小屋
 0:55 0:40 0:50 1:32

◇ 4 日目

焼岳小屋 (→ ← 焼岳北峰ピストン) → 焼岳登山口 → 上高地帝国 H → 上高地 BT
 1:03 0:30 1:19 0:16 0:17

■■総コースタイム 山中3泊4日(1沈) 8:57

□ 一年生合宿

一年生合宿の責任者を務めました、植本と申します。この合宿は初めての一年生だけの山行でありましたので、気を抜かないという事を自分なりに意識した合宿でした。

僕らは7人(2人は家の事情で欠席)というメンバーで、秋吉台の龍護峰を目指した。秋芳洞バス停からまず、秋吉台家族旅行村キャンプ場へ。思えば、このロードが一番きつかった。なにしろ、傾斜もさることながら、ザックが重い!お酒入りザックは思いのほか重かった。

キャンプ場に着いた僕らは、一息つき、サブザックで龍護峰登山口に足を踏み入れた。サイコーだったのは、林道が終わり秋吉台特有の丈の低い草、白い石灰岩、ドリーネといったものが辺り一面に広がる瞬間。S君などは感動の声で最後尾にいた僕にその瞬間が近づくのを教えてくれた。

夏休みでトレをサボっていた P-men をあおりながら御鉢山ピークまで(何人かは龍護峰ピークだと思ったようだが)。さらに、下って登って龍護峰ピーク登頂完了。ピークとは思えない広さがあり、昼食を摂って十分景色を楽しんだ。もちろん、ピーク写真は忘れずに。いい天気、寝ころがるのは気持ち良かった。

その後、来た道を引き返して秋吉台家族旅行村キャンプ場へ。後は疲れを癒すだけ。今宵、この夜をお酒の力で楽しもう!かんぱーい!!

この度の一年生合宿は天候に恵まれ、気持ちのよい山行ができました。P-men にとっては少し短くて、十分に満足できてはいないと思いますが、僕らはまだ一年生。これからの第一歩となったと思います。最後となりましたが、この一年生合宿は先輩方のお力添えなくしてはできなかったと思います。お力添えくださった先輩方、有難うございました。■

責任者: 植本 洋

2 執行部近況報告

執行部が一丸となって何ヶ月も取り組んできた夏合宿。これまで行なってきた錬成もトレーニングもミーティングも全ては夏合宿のためでした。私たちは夏合宿がどんなにすばらしいものなのか知っています。しかし1年生は夏合宿がどんなものなのか、写真と聞いた話でしかその姿を知りません。今まで費やしてきた時間もお金も労力も夏合宿に行ったら報われる、それだけすばらしいものだと1年生に説明してきました。

結果は山中2泊3日で両パーティーともエスケープ。沈も何もない、台風が近づいたことによるエスケープでした。執行部全員、槍も穂高も登ったことがなかったため両パーティーとも槍を組み込んだのに両パーティーとも登れなかった、笑い話にもなりません。下山する日はものすごく晴れ渡っていて本当に台風がくるのかと疑いたくなるほどでした。しかも私たちが下山する中、登っている人もいました。個人や仲良しグループで登るにはそれでもかまわないと思います。責任は事故をしたその個人個人が取ればいいのですから。

しかし山口大学体育会ワンダーフォーゲル部はれっきとした一つの組織です。すべての責任はその時の執行部が負わねばなりません。学生の自治団体だからこそ甘えは許されません。執行部は下級生に自然の素晴らしさにふれさせてあげる前に安全に親御さんの元に帰らせてやる義務があります。1年生はいったいどう思ったことでしょうか。ワンゲルとはこんなものだ、と説明するしかありません。

幸いにもほとんどの1年生がやめることなしに、後期に入ってからワンゲルを続けています。3年ぶりに復活した中国四国合同ワンデリングや、80キロ耐久徒歩、清掃ワンデリング、忘年ワンデリングなど前期にはなかった様々な行事がありましたしFWもあります。下級生がワンゲルに入って良かったといってくれることが執行部にとってどれだけ励みになるか、どれだけ支えになるかOB,OGの方はご存知だと思います。執行部を持つのもあとわずかですが安全かつ魅力のある部活動を行なっていけるように悔いの残らぬように頑張っていきたいと思います。■

本部第40期主将：藤井 祐介

3 2001年度春合宿コース紹介

霧島・開聞岳 Party

この度、春合宿のPLを務めます徳永仁亮です。春合宿では登山を行い山域は霧島山系の山々、開聞岳に行く計画を立てています。コースを紹介しますと、霧島南部の高千穂峰をピストンし、中岳～新燃岳～獅子戸岳～韓国岳と北部へ縦走します。その後、白鳥山、甕岳、硫黄山をサブザックで登り、大浪池をめぐる。そして、開聞へ移動し開聞岳をピストンして終了です。5泊6日の行程になっています。すべて火山性の山々ですのでピークからの展望はすばらしいです。1日目に登る高千穂峰のピークからはこれから縦走する霧島連山が見ることができ、意志も高揚することでしょうし、6日目の開聞岳からも遠くには霧島を望むことができ、これまでの山行を振り返ることでしょう。

しかし、火山性の山々ゆえに登山道には火山灰、火山礫があり危険な所もあります。しっかりと歩行技術等の確認も必要です。PLとして安全を第一に考え、P-menのことを考え、的確な判断ができるように考えていきたいと思います。

P-menは3回生が3人、2回生が1人、1回生が3人の7人です。3回生が自分以外にも2人おり大変心強いです。そして、夏合宿を終えてひとまわりもふたまわりも大きくなった2回生、1回生が楽しめるように努めたいと思います。■

PL：徳永 仁

奄美大島 Party

2002年春合宿で奄美大島を縦断します。6泊7日かけて120Kmのロードを南から北へと、1日平均17Km歩きます。P-menは3回生会計系の佐藤、2回生1人、1回生4人、そして自分の7人Partyです。

まず、山口から電車と高速バスを乗り継ぎ鹿児島へ行き、そこからフェリーで16時間、奄美大島の南端・古仁屋港へと向かいます。砂浜にテントを張りながら、目指すは北のあやまる岬。長い長いロードをひたすら歩きます。途中、日本第2位の大きさを誇るマングローブ林や珊瑚礁の遠浅の海を望め、奄美大島を端から端まで堪能できます。ただし、常にハブの危険と隣り合わせなので、むやみに茂みに近寄らないよう注意が必要です。

この合宿では、普段歩かないような長い距離を歩きます。ですから、マメや筋肉痛等の足に関する様々な問題が出てきます。そのために、トレーニングで長距離を歩く練習やストレッチを行ったり、テーピングの巻き方を覚えたりして、合宿に備えるつもりです。

私がワンゲルに入部してから、このような形態の合宿は初めてです。準備段階では苦勞する点もありましたが、他の執行部のメンバーや先輩達の助けもあり、しっかりと土台ができあがりました。これからParty行動が始まりますが、PLとしての自覚を持ち、思い出に残るような素晴らしい合宿になるよう、頑張っていこうと思います。■

PL：吉村 英子

現役部員近況報告 <工学部編>

1 2001年度夏合宿報告

北アルプス表銀座(上高地～常念山脈～燕岳) Party

9/1～9/7

今年の工学部夏合宿は、まず計画をたてる時に悩みました。なぜなら工学部初と思われる女性部員がいたからです。その事を考えて先輩方にアドバイスをもらいながら何回も計画を練り直し、そしてこの計画に決まりました。それではまず夏合宿について結果報告いたします。

9/1

AP 常盤駅……小郡……新大阪……名古屋……松本……新島々……上高地小梨平キャンプ場

いよいよ今日合宿出発である。ここに辿り着くまでにいろいろな事があったがやっと合宿に出発できる。電車を乗り継いで新島々までいき、そこからバスで上高地の小梨平キャンプ場まで行きました。到着が17:00を過ぎていたのでテントをたてすぐにエッセンをつくりました。そして就寝。

9/2

1日目 小梨平……明神……徳沢

この日は小梨平キャンプ場から徳沢園までの短いコースでした。樹林帯の中の大きなアップダウンのない横尾街道を、きれいな梓川をみながら歩きました。途中、明神岳が左手にそびえ立っているのが見えました。P-menも最初なので意気揚々と歩いていて、二時間もかからずに徳沢園についてしまいました。そのためテン場で暇をもてあましていました。

9/3 (2日目 徳沢園……蝶が岳ヒュッテ)

徳沢から蝶が岳ヒュッテへの長堀尾根の登りです。長堀山までが意外と長く、まだかまだかと思いがら登りました。最初は曇っていましたが、途中小雨が降り出しました。樹林帯の中の為、展望も全くなかったのが、急登をひたすら登るしかなかったです。P-menもきつそうでした。しかし長堀山から蝶が岳

ヒュッテまではすんなり行けました。樹林帯を抜け、ハイマツ帯の岩れきの道を歩くと常念山脈の縦走路が見え、やっとアルプス合宿らしくなってきたなと感じました。P-menの顔もすがすがしい顔になっていました。

9 / 4 (3日目)

強風・ガスのため沈。

9 / 5 (4日目 蝶が岳ヒュッテ----蝶が岳----常念岳----常念小屋)

ここから、やっと合宿らしい尾根縦走が始まります。蝶が岳・常念岳へ登り、常念乗越の常念小屋へと下るコースです。蝶が岳ピークにはすぐに着きましたが、ガスのため景色はよくなかったです。しかし、常念岳は垣間見ることができました。ここを過ぎていくつかの小ピークに登り終わると、常念への取り付きに着きました。

常念岳へ登っている途中、就実女子大学のワングルの団体と偶然あいました。話をしてみると、彼女らはなんと僕らの合宿コースの逆コースを登ってきたというのがわかりました。中四合ワンでの再会を約束し、常念岳への急登へ戻りました。岩帯のきつい登りを登り、常念登頂。ピークから横通岳・東天井岳が見えました。そして岩れき帯をジグザグに下り、常念小屋へ到着。中学生の団体が小屋に泊まっています。

9 / 6 (5日目 常念小屋----大天荘----大天井岳----大天荘----燕山荘)

この日は、燕山荘までのロングコース。まず、背の低い樹林帯を横通岳山腹まで登り、東天井岳の山腹を通り、大天井岳まで歩きます。この日は快晴で360度のパノラマがすばらしく、槍ヶ岳や穂高連峰が一望できてすごかったです。大天荘から15分で大天井岳をピストンし切通岩まで下りました。危険箇所の鎖場はなかなかスリルがありました。ここから、テン場の燕山荘までが長く、大下りの登りがきつかったです。あとはほとんど平坦な稜線を歩き、途中で奇怪な岩群の蛙岩を通り抜けてテン場に到着しました。到着したとたん周りがガスってきて、それまで見えていた燕岳が見えなくなりました。

9 / 7 (6日目 燕山荘----燕岳----燕山荘----合戦小屋----中房温泉)

今日が合宿最終日です。早朝燕岳をピストンし、ピークで写真を撮り、燕山荘に戻りました。私は燕岳にいる時、別世界にいるように感じるほど特徴のある山だと思いました。あと残るは中房温泉までの下りだけです。合戦尾根を過ぎると樹林帯に入り展望がなくなりました。合戦小屋で一休みし、急坂を下りました。膝が痛くならないように慎重に歩きました。途中で振り返ってみるとものすごい急登で、ここから登るとものすごくきつそうだなと思いました。そしてあっという間に中房温泉についてしまいました。合宿終了です。

本当にあっという間の夏合宿でした。P-menも口々にそういっていましたが、しかし途中でエスケープもせず、怪我もせず、全行程行けてよかったですと思います。ちょうど台風もそれてくれて幸運でした。しかし天候には恵まれず、快晴の日が1日しかなく、展望があまりなかったのが心残りです。

私たちは、今回の合宿の錬成を3回いきました。最初の2回はP-menの体力的問題や夏の暑さのためエスケープしました。そのためそれまでにたてていた計画をやめて、合宿の強度を落とした計画を立て直しました。それがこの計画です。

ここで反省点は、最初から女性部員の事を考えて強度を落とした合宿を計画しなかった事です。また合宿に行くには合宿相応の錬成に行かなければならないわけで、その時のザック重量の事も考えて合宿を計画するべきでした。自分なりには考えているつもりでしたが、足りませんでした。そのため一度承認をいただいた計画を立て直すという時間的ロスを生んでしまいました。現役部員3人という少なさの為、本部の時よりザック重量が重くなるのはしょうがないのですが、去年とは違うという事をもっとよく考えるべきでした。

僕の力足らずの為、いろいろなアドバイスをくださった先輩方、またP-menの原、柴崎、本当に深く感謝しております。ありがとうございました。■

PL : 吉田 拓也

▼コースタイム

◇1日目

小梨平 → 明神 → 徳沢
6:55 7:35/8:04 9:00

●2本 1:36

◇2日目

徳沢園 → 蝶が岳ヒュッテ
4:50 10:43

●6本 4:53

◇3日目 沈殿

◇4日目

蝶が岳ヒュッテ → 蝶が岳 → 常念岳 → 常念小屋
5:49 6:23/6:34 11:10/11:25 12:45

●6本 5:48

◇5日目

常念小屋 → 大天荘 → 大天井岳 → 大天荘 → 燕山荘
3:50 7:28/7:45 7:55/8:20 8:27/8:40 12:30

●計8本 6:14

◇6日目

燕山荘 → 燕岳 → 燕山荘 → 合戦小屋 → 中房温泉
4:53 5:14/5:23 5:42/6:00 6:34/6:55 9:04

●計5本 3:08

■■総コースタイム:5泊6日(1沈), 27本, 21:39, うちサブザック行動 0:57

2 執行部近況報告

今年の執行部としての活動も後半に入り前期とは打って変わって忙しくなりました。後期も3年2人、2年1人の計3人で執行部を務めています。まず、前期の活動を振り返るとやはり夏合宿に向けての取り組みが主体でありました。しかし、合宿に向けての大きな条件である錬成が2回エスケープしたことにより、合宿の出発が大幅に遅れ周りの方々にご迷惑かけたことは大きな反省点となりました。錬成を行う時期が遅く真夏日におこなったこと、部員の体調をしっかりと把握していなかったことが大きな原因だったと思います。

合宿の内容としては、天気には恵まれず1沈し、晴れの日が少なく全ての景色を望むことはできませんでしたが、全行程終了し北アルプスの山の魅力というものを感じ取ることができました。また、合宿を通して部の団結力が強くなったと思います。

後期に入るとすぐに工学部主催の大きな行事である80km耐久徒歩に向けての本格的な準備が始まり毎週、話し合いや下見などで執行部も含め宇部高専、ドライバーの方々には準備の段階からご協力いただきました。しかし、今年の80km耐久徒歩は残念ながら雨天のため中止となりました。当日は天気の状態を見ながらできるかぎり開催する方向にと考えていましたが、そのことが決断を遅らせ参加者の方々に迷惑をかけてしまったように思います。来年こそは天気に恵まれ80km耐久徒歩が成功で終わることを望みます。

今年は、中国、四国合同ワンデリングが岡山大学のがんばりのもと2年ぶりに復活し11月3、4、5日に開催されました。広島のと比婆山で行われ、工学部からは3年2人が参加し他大学との交流を深めるとともに自分たちの大学をアピールしました。これからもこの行事は続いてほしいと思います。この他に現在執行部では来年の県内合同ワンデリング開催に向けて宇部高専と共に準備を進めています。実行委員長は工学部2年の柴崎洋子が務めます。参加者の方々がいい思い出づくりをできるような県合に

したいと思います。

残り少ない期間での執行部の活動になりますが最後の締めくくりとして春合宿に向けての活動が残っています。PLは3年の原和義が務め、屋久島での山行を計画しています。最後に、今年1年の活動をもう一度振り返り反省する点、改善する点をあげ、残りの活動に生かし、次の執行部に引き継いでいきたいと思います。■

工学部第39期主将：原 和義

3 第35回80km耐久徒歩結果報告

今年の80km耐久徒歩は残念ながら雨天のため中止となりましたことをお伝えしたいと思います。前日の天気予報で28日は雨との予報がなされましたが小雨であることを願いひとまず本部役員、参加者は萩の川島公会堂に集合することにしました。

27日(土)の11:00に本部役員は工学部に集合し必要な荷物を車にのせ、その後のことについてミーティングした後それぞれドライバーの車に乗り萩の川島公会堂へ向かいました。この間、天気は曇りでした。

17:00頃になると参加者が公会堂に集まり始め賑やかな雰囲気になり、18:30からパーティーごとに集まり、自己紹介などをおこないました。参加者は19:00から全員仮睡眠をとり、後は28日0:00の天気の様子から出発できるかどうかの判断をまつことになりました。

しかし、22:00の天気予報を聞き0:00～朝方までは雨が降り、ところにより雷雨との予報が発表され、ますます出発することが困難になり本部役員を集め出発できるかどうかの話し合いをいたしました。この結果4:00頃まで公会堂で待機してもらい、それからドライバーが中間地点である道の駅美東まで参加者を運び、最終的に午前7:00からの天気が回復にむかえばそこから工学部ゴールまでマイペースだけを行うことにしました。

しかし、虚しくも7:00ごろには雨が強く降り、午後までこの雨が続く模様から午前7:30に中止を決定いたしました。この様な結果になってしまいとても残念でしかたありません。最後に、このたび御参加いただいた27名の参加者の皆様、準備の段階からご協力いただいた本部役員の方々また、横浜から山口に来てくださっていた工学部OBの刀根さん、川島公会堂に差し入れを持ってきてくださった山大本部OBの有馬さんにこの場をお借りしてお礼申し上げます。

来年も、80km耐久徒歩は行う予定ですので、その時もぜひ多くの方にご参加いただきたいと思います。来年こそは晴れることを願いつつ結果報告とさせていただきます。■

第35回80km耐久徒歩実行委員長：原 和義

4 2001年度春合宿予定

2001年度の工学部の春合宿は長崎県の五島列島福江島で4泊5日トレッキングを行います。トレッキングでは「歩く」ことを目的に山ではなくロードを主に歩き、自然を体感していきます。今回、合宿の舞台となる福江島は長崎県の西方沖100km、東シナ海に浮かぶ五島列島の南方にあり最も大きい島です。1市4町から成り、600年の歴史をもつ城下町であるとともに、島北部には歴史のある教会が点在しています。また、南部はなだらかな海岸線が広がり、海水浴場やキャンプ場が多く、特に夏は賑わいます。この島のみどころは美しい海に囲まれた大自然と歴史を感じさせる多くの建物、自然が多いところだと言えます。それでは、以下に合宿の内容を紹介していきます。

アプローチは山口から長崎までJRを使い、長崎港からフェリーで福江港へ向かいます。1日目はまず標高317mの鬼岳と呼ばれる全山が芝生に覆われた美しい火山にハイキングコースを使い登ります。ピークでは展望台がありこれから歩いて回る美しい島並を一望できます。それから、20kmほどの海岸沿いのロードを横に広がる海、島を眺めつつ歩いていきます。この日のテン場であるキャンプ場は岬の先端にあり、眺めもよく美しいキャンプ場です。

2日目も20km近くの距離を歩くこととなります。この日はほとんどが林道ですが、所々見える大展望は素晴らしく歩きつさを忘れさせてくれます。この日のメインである大瀬崎断崖は福江島の景観

を代表するスポットであり、高さ100～160mもの断崖が約20km続いており壮大な景色を望むことができます。また、この場所は沖縄が返還される以前は、日本で1番最後に夕日が沈む場所でした。2日目のテン場も整備されたキャンプ場ですが、この日までがキャンプ場でテントを張ることになります。

3日目も海岸沿いの道をひたすら歩いていきます。この日の見所は行動中の景色はもちろんですが、なんといってもテン場である高浜であり、日本一美しい砂浜といわれています。海の色も美しく天気の日には海がコバルトブルーの美しい色に変わります。この日は、波の音を聞きながら就寝です。

4日目は、海と山が交互に現れる道を進み、海に突き出た場所にある三井楽町を回ります。この場所は歴史的建物が多く、昔の町並みを見ることができます。4日目あたりからは足の疲労がみえはじめるとおもうのでこの日は頑張りどころだと言えます。この日も浜にテントを張ることに成ります。

最終日5日目、この日は、島の内部の道を通りスタート地点であった福江港に戻ります。途中登りが続きますがゴールを目指してひたすら進めば、福江港にて合宿終了です。合宿終了後はフェリーで長崎市内にもどり、ちゃんぽんを食べるのもいいでしょう。

以上が合宿の内容です。合宿を成功させるためにも日々の活動にさらに力をいれていきたいと思えます。■

PL：原 和義

OB 近況報告

振込み用紙から

▼本部5期

吉永 哲也 今年7月28日、涸沢から穂高へ夫婦で登りました。

▼本部27期

陸門 正行 現在中国上海で生活しておりますので、皆様と会える機会もあまりありませんが、OB通信いつも楽しく読ませていただいています。

ホームページに寄せられた近況報告から

本部

▼11期

仁木 明人 最近、東京出張の際や、山大工学部在籍の長女のところを訪問した際には、同時期にYUWVに在籍したOB連中とよく飲んでいました。

上田 功 きらら博の事務局で1年先輩の山本充二さんが頑張っておられます。山口近辺の旅鳥諸兄弟姉妹は、今夏の予定に同博へでかけることを加えてください。小生は、齢50才を迎え、ようやく不惑に達したといった今日このごろです。

▼28期

河野 有里 本部第28期執行部でメッチェントレーナーを務めました平井です。平成12年3月に結婚し、河野になりました。

▼29期

松隈 好兼 山にはほとんど登っていませんが、毎年1・2回は山口で27期～30期の人たちと集まって飲んでいました。

▼30期

小石原 寛 元気です。お腹周りが成長しつづけています。現役時代のユニフォーム、大事にしていますけど、はちきれてしまうかも。全く山登りから離れてしまっています。子供が大きくなったら、少しは近所の山にでも連れて行ってみたいものです。

▼37期

国清 順一 山口県にある某オーダーメイドパソコンメーカーに就職しました。ご購入の際は、お気軽にどうぞ。

工学部

▼8期

三浦 静止 関東OB会で時々ハイキング程度の山行をしていますが、当方パラグライダーで舞い上がるほうがおもしろくて、去年はスイスの山で飛んできました。でもスイスはやっぱりトレッキングが良いですね。山大はパラのクラブが活躍のようですね。

▼11期

松永 烈 8月3日、高松への出張の後、徳島（阿南）の仁木さん宅を訪問し、一泊してきました。猛暑の夜、ビールとスタチュー、それに奥様の手料理を楽しみました。翌日は、山口（宇部の娘さんの所）へ出かける仁木さんの車に同乗して徳島に引き返し、工学部WV後輩の古賀君宅を訪問。奥さん（宇部短OG）とも久しぶりの再会で、昔話に花が咲きました。8月中旬の山形県肘折での現場実験の後、久しぶりに山（神室山）に登ろうと思っていますが…。体力はまだまだOKですが、時間が取れるかどうか心配です。9月2日には土浦での年2回の鶴沼ウルトラマラソン（52km）に参加の予定です。暑そうなので5時間半が目標です。

▼12期

香月 龍幸 現役のワンダラーの皆さん頑張って下さい。

▼14期

吉岡 毅 一昨年、フルマラソンに出場しました。（タイム3時間56分 最後は、バテタ。）今年も参加しようと思ひ、練習に励んでいます。ランニングコースは、自宅～若草山～春日山で約2時間かかりますが、原始林（世界遺産登録済み）の中を駆け抜ける時の爽快感は、癖になります。（夏でもほとんど木陰です）ルートを紹介しますのでお近くにお住まいの方は、ご連絡下さい。

▼18期

幸西 義治 信州に住んで20年、目の前に穂高や常念を見てるだけです。

▼35期

堀江 淳一 工学部主将を務めていました。現在、某電機メーカーに勤めています。このホームページを見るたびに、ワンゲル生活が懐かしく思えます。現役の皆さん頑張って下さい。
敬称略

編集後記

2001年度OB通信Vol.2が完成いたしましたのでお届けします。最近原稿もほぼ全てデータで渡してくれるので編集作業は楽になりました。本部にはメールをうまく使えない部員もいるのですが、工学部からは全員メールで送ってくれました。やはりこういう面では工学部は違うな、と感じますね。

ところで、夏に白馬三山縦走の計画をしていたのですが、合宿の都合により残念ながら行くことができませんでした。代わりに、一人でアタックザックを担いで5日間高知県を歩いてきました。

高知駅から四万十川河口まで歩いていく予定でした。二つ上と一つ上の先輩方が、8月に東京から京都まで歩いていたのをまねしてやったのですが、足の痛みや空腹で思ったより距離が稼げず、四万十川の端っこに辿り着いたあたりで断念してしまいました。一人で旅をすることの辛さが身に染みた5日間がありました。

しかし旅の途中では、漁師のおじさんに泊めてもらって食事をご馳走になったり、雨の中歩いている時おばあさんに傘をもらったりと、人とのふれあいもありました。見知らぬ土地で親切にされることは

本当にうれしいものです。

公園や道の駅での野宿、火器でメシを作ったりと、ワングルで習った様々なことが役に立った気がします。ワングルとは、現役時代に行ったことも大切ですが「それをこれからどのように生かしていくのか」ということに価値があるのではないのかな、と考えたてみたりもしました。

今年度OB総会と同日には卒部式、追いコンも行われるのですが、そのことを思うとちょっと寂しい気持ちになります。きっと僕は、卒業して山口を離れてしまったら、山大ワングルのことが恋しくなるでしょう。社会にでてもワングルの仲間たちとは連絡を取り続けたいものです。

そんな意味で、OB会のこれからの発展は非常に楽しみです。最後になりましたが、OB通信、OB総会の話し合いのためにわざわざ自分の下宿まで足を運んでくださった会長、副会長にお礼を申し上げたいと思います。

新OBとして、OB会の更なる進展を心から願っております。それでは。■

編集：崎間 公久